

特別展 筆の美
徳川家康の筆が

熊野にやってくる
4月8日(水)~26日(日)

筆の里工房所蔵の「木村陽山コレクション」のほか、五島美術館所蔵の宇野雪村コレクション、ポーラ文化研究所所蔵の江戸期の化粧筆コレクションを中心に約300点を紹介します。

今回の見どころは、文人、書家、画家など歴史に名を残した人々が愛用した筆です。なかでも、久能山東照宮博物館所蔵の徳川家康が使ったとされる筆(重要文化財)は、虫食い部分から

紙巻の構造であることが確認できます。お見逃しなく。

ワークショップ

「特殊筆の書き味体験」

4月12日(日)午前10時~正午

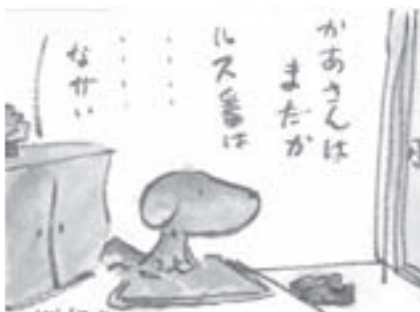
アダン筆、筆草、わら筆、巻筆などの特殊筆について解説をしながら、実際に書き味を体験します。

500円(要入館料)
30人(要申込)



心の絆 愛の絵てがみ展
4月26日(日)

JR脱線事故で亡くなった漫画家石井利信が家族に宛てた、ほのぼのとした温かみのある絵てがみ作品約350点のほか、漫画原稿も紹介します。



↑石井利信の作品

ちばてつや展
4月29日(水)~6月7日(日)



↑ちばてつやの作品

「あしたのジョー」や「おれは鉄兵」、「あしたの天気になあれ」など多数の作品を創作し、多くのファンを持つ、ちばてつやの漫画原稿、原画作品など様々な作品を紹介します。初期作品から

現在に至るまで、幅広い作品を紹介し、画業を振り返ります。また、愛用の筆や制作道具も合わせて展示します。

ちばてつや

来館イベント

5月3日(日)

▽アーティストトーク：午後1時~(聴講無料、要入館料)

▽サイン会：午後2時~(指定商品購入の人、要入館料)

先着順各100人

※当日、午前9時半から整理券を配布します。

入館料 大人 500円

小中高生 250円

幼児 無料

※PAL会員は無料です

※4月7日(火)までは、大人300円・小中高生150円

報告
筆づくりフォーラム in Tokyo

2月21日(土)午後1時、銀座にある定員300人の時事通信ホールが満席となり、増席と会場外のモニター席で、500人近くの参加者が着席する中、「筆づくりフォーラム」は開会しました。

第1部の前半は、書筆の検証です。現物が残っていない、平安時代の筆を、紙巻の製法で熊野の職人が再現。原毛は、鹿の尻尾周辺の柔らかくて白い毛、白真を使い、その特徴を仁井本誠研伝統工芸士が解説後、



↑筆の未来への提言の様子

それをういた水墨画会の重鎮、斎藤南北先生の筆さばきは圧巻。多摩美術大学教授の島尾新先生は「1本の線を表現するのに、この筆でしか描けないことはいく、筆跡からの筆の検証には気をつけなくてはなりません。斎藤先生が、どの筆を使っても、自在に表現を

されることから分ります。」と結び、聴衆も、その筆さばきを目の当たりにし、深く納得させられたようです。

第2部は、開会と同時に熊野の化粧筆が聴衆に配られると、その肌触りの心地よさにウットリ。竹森鉄舟氏が製作工程を紹介し、さらに、20年以上前から熊野筆を愛用しているという、ビューティーエキスパートの大高博幸先生によるメイクの実演と、「熊野筆、愛しています」と言われるくらい熱いトークにより、熊野の化粧筆の質の高さが、女性はもちろん、男性にも強く印象付けられました。

今回のフォーラムでは、筆への関心の高さが伺えました。ほとんどの参加者が、4時間にもわたるフォーラムを最後まで聴講し、また休憩時間には、荒谷城舟伝統工芸士による筆づくりの



↑メイク実演の様子

実演の周囲は人だかりとなり、質問が飛び交いました。そして、フォーラム終了後に、出口で見送りをしていた三村町長、芥川実行委員長に、ほとんどの参加者が、「良いフォーラムでした」と声をかけてくれました。

木村陽山コレクション収蔵を機に始まったばかりの「筆づくりフォーラム」。今回の東京での開催により、次へのステップを踏み出す大きなエネルギーをもらうことができました。

第42回筆の都
くまの町民文化祭
参加者・グループ募集

町民文化祭を次のとおり開催します。日常活動の発表の場、地域の人たちとのふれあいの機会として、この文化祭に参加してみませんか。申込用紙に必要事項を記入の上、期間中にお申し込みください。申込用紙は生涯学習課、各公民館にあります。

10月24日(土)、25日(日)

町民会館 文化を愛するグループ及び個人

個人1千円、グループ2千円

▽部門：作品展示、芸能発表、バザー、その他

▽申込期間：4月1日(水)~5月31日(日)

生涯学習課 820・5621